BSR 通信

BSR 推進室ニュースレター第 8 号

平成 26 年 11 月 10 日

発行：大正大学 BSR 推進室

〒170-8470　東京都豊島区西巣鴨 3-20-1

03-5394-3079（直通）

bsr_lab@mail.tais.ac.jp

目次

1 頁　：　巻頭言
2 頁　：　さざえ堂だより
3 頁　：　研究ノート
4 頁　：　BSR 図書室・今後の予定

螺旋の意味――反対側に出ることとは――

大正大学表現学部長・教授
小嶋　知善

さざえ堂について考えようとすると、真っ先にその形状に思いが及びます。

さざえ堂の螺旋（らせん）状になっている階段を上までのぼって降りてくると、のぼった側とは反対側にある裏側に出ます。まさにこれこそがさざえ堂の特徴なのですが、入口と出口が別側にあるということ、入口の反対側に出る、裏側に抜けるという構造は、この建物に入って出てくるたびに、一種新鮮な驚きとともに何かしらの象徴的な意味合いをいつも私に感じさせます。さざえ堂の構造は私にとって、暗示を秘めています。

私たちは日々さまざまな物事を考えます。大切なことは、多角的に考えること、捉われない視点で発想をすることだと分かってはいても、なかなかそれはできにくいことです。

しかし、考えた末に辿り着いた、思い付いた考えが、何かを変えたり、また自分を救ったりする場合には、別の出口に抜けたという感懐を抱くのではないかと思います。何かを学ぶことの意義と難しさは、私たちの生きる意味と不可分だと思われます。

悩みや苦しみを抱いていた人が、その苦悩から救われて、新たな気持ちを持ち得た場合に、目に映る光景が先ほどと違って見えるということは、たぶん、そのこと自体に象徴的意味合いが付与されたことになるわけです。

私が所属している表現学部は、さざえ堂の隣にあります。大学校内に最初は異分子のように出現したさざえ堂は、今では、そこにあるのが当然のようにして、私たちの学びの日常に入り込んでいます。そのことを、不思議なことのように、また、当然なことのように感じます。

私は朝な夕なさざえ堂のそのそばを通り、この堂を見上げ、そして時折のぼってみては裏口からそっと出てきます。

さざえ堂だより

さざえ堂パン＆オクトくんパン

大学南門を出て、都電方向に 2 分ほど歩くと左手からパンの良い香りがただよってきます。そちらが今回の舞台「庚申塚丸十パン店」さんです。

どうして「さざえ堂だより」にパン屋さん？と思われる方もいらっしゃるでしょう。

実はこちらには、なんと“さざえ堂パン”が販売されているのです。いや、正確にはチョココロネなのですが、お店の POP に控えめに「さざえ堂パンかも、、、」と書かれています。

ためしにチョココロネを立ててみますと、あら不思議！さざえ堂とうりふたつではありませんか？！この新たな発見に驚きを隠せない BSR 推進室メンバーは、いてもたってもいられず、丸十パンさんにお話をうかがいました。

お店番をされていた奥様によると、ご主人の仲村さんは福島県のご出身。鴨台さざえ堂のモデルである会津のさざえ堂は、仲村さんにとって昔からなじみ深い存在です。それゆえ、大

正大学にさざえ堂ができると聞いて、とても楽しみにしていただいていたそうです。そして、さざえ堂ができてからは、人の流れが変わったと奥様も喜んでくださっていました。このさざえ堂パンは、さざえ堂を応援するお二人のお気持ちのあらわれ、読者の皆様もぜひお召し上がりください。

奥様にお話をうかがいながら、陳列棚を眺めていると、どこかで見たようなかわいらしいパンに目が留まりました。目を凝らしてみますと「オクトパス　たこくん　オクトくん　南三陸応援！！」と書いてあるではありませんか！

大正大学が震災発生直後から支援を続け、今ではエリアキャンパスとして学生の教育の場ともなっている南三陸町。名産のタコをモチーフにしたキャラクターグッズ「オクトパス君」が作られたのは、震災発生の 2 年前でした。津波で工場も流されてしまいましたが、もう一度、町の元気を取り戻したいという希望のシンボルにと、大正大学もメンバーとなって「南三陸復興ダコの会」が結成され、ゆめ多幸鎮オクトパス君が復活したのです。そして、そのオクトパス君をモチーフとしたのが、丸十パンさんの「オクトくん」。

地域との連携を深めるべく日々努めている我々ですが、こうして、地元のお店に大学の活動を支援していただけることに感謝するとともに、期待に応えられるようさらに気を引き締めた次第です。（O）（※どちらのパンも火・木・土の販売になります。）

本家オクトパス君とオクトくんをパチリ

研究ノート

臨床宗教師の可能性⑥

―臨床宗教師のこれから―

これまで、臨床宗教師（東北大学実践宗教学寄付講座）、スピリチュアルケア師（日本スピリチュアルケア学会）、臨床仏教師（臨床仏教研究所）という 3 つの資格を紹介してきました（ただし、臨床宗教師は資格ではなく、講座修了認定）。

これら 3 つの資格は、主催する各団体・組織の立場や視点からプログラムが組まれ、資格・修了を認定していますが、類似した領域で活動する宗教者を養成するという趣旨では一致しています。今回は、各資格の「これから」に焦点をあて、最近の動向を紹介したいと思います。

日本スピリチュアルケア学会学術大会

スピリチュアルケア師を認定するスピリチュアルケア学会では毎年学術大会を行っています。2014 度の大会（9 月 7~8 日、於上智大学）では、基調講演に先立つプレ・パネルで、「臨床宗教教育の可能性」と題し、スピリチュアルケア師、臨床宗教師の横の連携の可能性について発題がなされました。

登壇者は、伊藤高章氏（上智大学教授）、谷山洋三氏（東北大学准教授）、井上ウィマラ氏（高野山大学教授）の 3 名で、いずれも宗教者のための臨床プログラムを開講する教育機関の代表者です。

なお、東北大学の臨床宗教師講座と高野山大学のスピリチュアルケアコースは、2014 年度より、スピリチュアルケア師の認定プログラムに加入しました。

プレ・パネル「臨床宗教教育の可能性」（左より、伊藤氏、谷山氏、井上氏）

プレ・パネルでは各プログラムの取り組みが紹介されるとともに、認定資格の基準の明確化、スピリチュアルケア師と臨床宗教師の関係性などの意見交換が行われ、各登壇者の発題後にはフロアも交えた議論が活発な議論が展開されました。

会場には医療関係者も多く、スピリチュアルケアが、たんなる宗教者側からの提案ではなく、実際の医療現場でも必要とされていることがうかがえました。

今後、各プログラムのカリキュラム内容の充実化とともに、プログラムの横の連携も図られていくのではないかという期待を抱かせるプレ・パネルでした。

第二期臨床仏教師講座開講

仏教者により対象をしぼった臨床仏教師講座も第二期がスタートしました。今期は大正大学を会場に、座学、ワークショップが行われる予定です。

第 1 回目の公開講座（座学）は、10 月 15 日から始まり、現在すでに 3 つの講座が終了しています。第二期の受講者数は 80 名ほどで、第一期より若干少なくなりました。

臨床仏教師講座は、座学・ワークショップ・実践研修の 3 つのステップで構成されますが（BSR 通信第 6 号参照）、各ステップの終わりには厳正な考査があります。第一期の 100 名の講座受講者のうち、最終ステップまで進んだのはわずか 8 人です（ただし、次のステップへ進むことを希望しない受講者の方もいらっしゃいます）。

厳しい考査の存在が、受講者の微減につながっているのではないかと講座を主催する臨床仏教研究所はみています。しかし、逆にいえば、今回受講している 80 名ほどの方は、厳しい考査があることを覚悟の上で受講しているともいえます。

また、今期は僧籍を持たない一般の方の割合が増加しているとのことです。「臨床仏教」の担い手の裾野の拡大は仏教界にとっても喜ばしことでしょう。

第二期臨床仏教師公開講座の様子

各プログラムのこれから

各養成プログラムとも創設期を過ぎ、資格制度の基準統一化、裾野の拡大など次の課題が見えてきたようです。今後、プログラム修了者が年々増加することが想定されますが、上記の課題にくわえ、「臨床の現場」の整備も同様に進めなければならない課題の一つであるように思われます。

各プログラムが対象とする医療、福祉、教育などの領域は、これまで「宗教」から切り離されてきました。しかし、それぞれの現場では、現在、再び宗教の力が必要とされつつあります。

制度的制約を乗り越えて、宗教者や仏教者が活動する「臨床の現場」をどう整えていくか。この課題への取り組みも今後注目されるでしょう。(T)

BSR 図書室

松本紹圭　井出悦郎

『お寺の教科書　未来の住職塾が開く、これからのお寺の 100 年 』

（徳間書店、2013 年、1,400 円＋税）

「世界一分りやすい！開かれたお寺づくり入門書」として、「未来の住職塾」の塾長・松本紹圭氏、講師・井出悦郎氏により書かれた書籍です。

未来の住職塾とは、未来を見据えた僧侶たちが宗派を超えて集まり、これからの社会におけるお寺や僧侶のあり方を探求する、平成 24 年から開講している僧侶養成プログラムです。全 5 回からなる総合的なプログラムである「本科」を東京、名古屋、京都、大阪、博多で開講している他、個別のテーマを学ぶセミナー・通信講座を開講しています。その未来の住職塾のエッセンスを盛り込みながらも、可能な限り平易な表現で書かれたのが本書です。

本書第 1 章では、仏教ブーム、ライフスタイル・環境の変化、檀家制度、僧侶の信仰等のキーワードをもとに、寺院・仏教・僧侶の置かれている現状を分析し、第 2 章では、寺院・僧侶の潜在的な力とその可能性をポジティブに紹介しています。それを踏まえ、第 3 章、4 章ではこれから求められる寺院・僧侶の具体的な運営方法を述べ、未来の住職塾について紹介しています。

両著書ともに経営のスペシャリストでもあることから、可視化、ビジョンなどのマネジメント用語が使われ、「アンゾフのマトリクス」などのフレームワーク（考え方の枠組み）が紹介されています。しかしながら経営とはいえ、お金の話ではありません。お寺の本分とは何かを問い詰め、その本分に適った運営の方法はどのようなものなのかと追究することを目的として書かれた、これからの寺院・僧侶の羅針盤となりうる一冊です。（M）

今後の予定

11 月 15 日（土）	11 時～12 時	花会式（真言宗豊山派）	鴨台観音堂前
12 月 20 日（土）	11 時～12 時	花会式（天台宗）	鴨台観音堂前
	9 時～13 時	あさ市	南門　けやき広場
	15 時 30 分～	天台声明と雅楽の夕べ	礼拝堂

＊主催=大正大学台友会